

Ⅲ 点検・評価の結果

◎松尾委員からのコメント

平成21年度に千葉市教育委員会が執行した事業について、主に学校教育に関わる「施策1 次代を担う子どもたちをはぐくむ」について、まずこれを構成する基本施策別に所見を述べ、最後に総括的な所見を述べることとする。

基本施策1-1「わかる授業を推進し、自ら学ぶ力を身に付けさせる」については、基本事業の達成目標に向けて、概ね目標が達成されている。全国学力・学習状況調査の結果が良好であることや、科学館・図書館・博物館等を活用した授業展開が進んでいること等は関係する事業の取り組みの成果であると判断することができる。一方で、学校の勉強が好きである中学生の割合は必ずしも高いとは言えず、また、情報教育の充実・推進についても十分とは言えない状況があり、これらについてはより一層の工夫改善が求められる。

基本施策1-2「社会性を備えた豊かな心をはぐくむ」については、基本事業の達成目標に向けて、概ね目標が達成されている。小学生・中学生の9割程度が「係活動等責任を持って行っている」と答えていることから、責任感の向上等を目指した心の教育が充実していることが窺える。これは各種体験活動をはじめとする取り組みの成果であると判断することができる。また、いじめの解消率が増加傾向にあり、これは悩み・不安に対して行う相談の実施による効果であると読み取ることができる。さらに、小学校英語活動に対する児童の反応「英語が楽しい」「役に立っている」という割合が高いことから、この活動が子どもたちの国際的な視野を広げるための一助になっていることが分かる。一方で、情報モラル教育についてはそのカリキュラムや教材開発が十分とは言えず、その工夫改善が求められる。

基本施策1-3「体力を高め、健康な身体をはぐくむ」については、基本事業の達成目標に向けて、十分に目標が達成されている。新体力テストの結果により、本市の児童生徒の体力・運動能力は継続的に良好な状況であることが明らかにされており、その関係事業の取り組みの成果であることが窺える。また、朝食を必ず食べる児童生徒の割合も増加傾向にあり、生活習慣形成や健康増進の取り組みについても高く評価できる。今後は心身ともに健やかに成長していく丈夫な体づくりのための環境整備拡充が期待される。

基本施策1-4「家庭の教育力を高め、地域の教育力を活かす」については、基本事業の達成目標に向けて、概ね目標が達成されている。家庭における子育てサポートに関する事業を推進し、放課後子ども教室や楽しい教室づくり等の

家庭・学校への支援が充実している。また、学校セーフティウォッチャーの登録数やこども110番のいえ設置数も増加傾向にあり、地域との連携・協力による学校安全対策の整備拡充が窺える。その一方で、家庭における子育て支援については、こども未来局等との連携により、家庭の積極的参加を求めるのみでなく、真に必要な家庭への支援を実施できるような体制づくりの工夫も必要であろう。

基本施策1-5「子どもの学びを支える教育環境を整える」については、基本事業の達成目標に向けて、目標達成がやや不十分である。学校施設についての耐震化率は着実に増加しているものの、目標値達成には未だ遠い状況にある。安全対策の最重要課題の一つとして、耐震化については加速して推進する必要がある。また、LANやコンピュータの設置及び地上デジタル化への対応についての迅速な整備は評価できるが、その一方で、授業の充実を図るためには、このような物理的な環境整備とともに、活用方法に関する教員研修の機会を十分に提供し、活用の効果を明示することが重要である。

基本施策1-6「意欲と指導力のある教職員を確保・育成するとともに、教職員が職務に専念できる体制を整備する」については、基本事業の達成目標に向けて、概ね目標が達成されている。教職員の資質・力量向上のため、各種研修が実施されている。また、教育研究の奨励も増加傾向にあることが窺える。一方で、免許外教科担任の教科申請件数が相当数あることから、人材発掘を含め、その対策を講じることが重要である。また、教員の超過勤務時間等の問題が生じる原因ともなっている学校問題解決に関しては、その支援体制づくりを早急に考え、実施する必要がある。さらに、団塊世代教職員の大量退職等への対応として予想される教員の新規採用数の増加に伴い、初任者や若手教員の能力・資質向上のための研修を強化させることが課題である。

基本施策1-7「多様な教育的支援を充実させるための教育環境整備を一層推進する」については、基本事業の達成目標に向けて、概ね目標が達成されている。特別支援教育指導員配置、適応指導教室、教育相談及び学校訪問相談員派遣等の各種事業が実施され、児童生徒の取り組み状況や生活面の改善、不登校児童生徒の登校等により、その成果が窺える。その一方で、依然として、不登校児童生徒等が一定程度存在することより、この問題解決に向けて、より一層の工夫改善が求められる。

基本施策1-8「学校・家庭・地域・行政が一体となって、子どもの成長をサポートする」については、基本事業の達成目標に向けて、十分に目標が達成されている。学校評価システムの実践研究に取り組み、学校関係者評価が100%

実施され、また、学校ホームページにより学校情報も 100%発信されている。いずれも、学校・家庭・地域・行政の連携協力への基盤づくりを実現していると高く評価できる。今後は、その評価結果が学校教育全体に反映されることで、学校教育等のさらなる充実・推進が期待される。

以上、平成21年度に千葉市教育委員会が執行した「施策1 次代を担う子どもたちをはぐくむ」に関わる事業については概ね良好な成果を得ているものとする。一方で、市民の大きな期待に応えるためには、事業実施に関連した点検・評価を明確に位置づけ、説明責任を果たすとともに、教育施策の充実につなげていく仕組みづくりを考えることが重要である。そのためには、学校現場で働く教職員による事業に対する客観的な評価のシステムづくりや、学校へ児童・生徒を送り出している市民の声を広く直接的に聞くシステムづくり等が課題となるだろう。～学校教育等を充実し、推進することにより、子どもたちに「自ら考え、自ら学び、自ら行動する力」を身に付けさせる～を目指しつつ、学校・家庭・地域・行政の連携により、学力や体力の向上、心の教育の充実、教育環境や安全対策の整備、青少年の健全育成、教職員の研修の充実等に対する長期的な改革の企画・推進を強く期待したい。

◎岩崎委員からのコメント

千葉市教育委員会の事務のうち、施策2「青少年を健全に育成する環境づくり」、施策3「心のふれあう生涯学習の推進」、施策4「個性豊かな新しい千葉文化を創造する（文化財関係）」、施策5「スポーツ・レクリエーション機会の創造・充実」についての点検・評価結果について報告する。

1. 施策2「青少年を健全に育成する環境づくり」

成果指標のうち、「地域活動に参加した子どもの数」が目標値を上回り、90,000人に上方修正するなど、子どもの地域での活動が積極的に推進されてきていることは高く評価しうる。多様な年齢や立場にある地域の人々との交流や自然体験は青少年の健全育成に欠くことのできないものである。数値目標はあくまで目安であるが、今後も内実を伴って、子どもに地域活動の機会や、「千葉市少年自然の家」などの施設活用による自然体験の機会が広く提供されることが望まれる。

2. 施策3「心のふれあう生涯学習の推進」

施策4「個性豊かな新しい千葉文化を創造する（文化財関係）」

21年度「市民意識調査」によれば、生涯学習活動の方法・機会でもっとも多い回答は、「生涯学習センター、公民館、図書館など行政機関や公共施設」での学習である。千葉市の生涯学習施設が市民の重要な学習の場として考えられており、市民の生涯学習の推進に大きく寄与していることがわかる。たとえば、次のような点は特記に値する。

- 1) 生涯学習センターでの企画事業、学習相談、図書館職員による企画、科学館での参加型ワークショップ企画など、企画やレファレンス機能が充実している。
- 2) 工夫された情報展示など、市民の学習意欲を刺激し鼓舞する働きかけが十分になされている。
- 3) 千葉市の伝統文化、文化財などの地域の学習資源の保存と教育活用が考慮されている。

総じて、施設のネットワーク化、生涯学習ボランティアの確保、企画事業の質の高さ、生涯学習事業のハード、ソフトの面でも充実した内容が市民に提供されていると考える。今後は、生涯学習センターなどの中央の拠点のみならず、ネットワークを通じてすみずみにわたる市民の学習ニーズをすくいあげ、それに効果的に応じるとともに市民の啓発・普及に一層努められるよう期待する。

3. 施策5「スポーツ・レクリエーション機会の創造・充実」

スポーツ・レクリエーションについては、子どもからおとなまでスポーツ

活動や健康・体づくりの充実が図られると同時に、「国際千葉駅伝」や「千葉国際クロスカントリー大会」など「観るスポーツ」によりスポーツを身近に感じる機会が提供されている。21年度「市民意識調査」によれば、市民の今後参加したい生涯学習活動で最も多いのが「健康づくり・スポーツ」となっている。このような市民のニーズに応えるために、現在実施されている事業の情報や場の充実が課題となろう。

4. 全体的所見

千葉市は他に比べて地域活動の参加率が高いとされている。また、ボランティアの登録数も比較的多い。学習成果を生かし市民の地域への参画を促すしくみ、学習情報を年代や地域の違いを考慮し綿密に周知する工夫など、行政が市民の学習活動を支援し地域に還元しうる循環型の学習サイクルを可能にする仕組みづくりが重要である。

また、生涯学習施設の整備・充実は、市民に高く評価されているが、施設の企画の質の高さや施設の利用しやすさは、個々の職員の労苦を厭わない熱意と自発性に基づいて行われている。このことを高く評価し、職員の意欲の維持・向上や専門性の研鑽になお一層力を入れることは、千葉市の生涯学習推進において最も重要なところであろう。

千葉市教育委員会の事務のうち、生涯学習関連施策については、財政事情や現実的な運営の制約にあって、市民が「主役」の人間的な交流の中で効果的、効率的な実施が培われている印象を受けた。今後、第4次千葉市生涯学習推進計画の策定によって、千葉市の生涯学習が市民の生活の豊かさを保証するために推進され、全国のモデルとなるべくさらに充実することが望まれるところであろう。